

GOCCOPRO 100

導入事例のご紹介



腕のある職人が仕事を増やしたい、
新しい挑戦がしたいと思うとき
このマシンは力になってくれます

サン工芸

代表 堀田 健次 様

近年の国内シルク印刷の需要は多品種小ロットにシフトしています。当社でも数千、数万の大量注文よりもノベルティ100個、Tシャツ50枚、部品のサンプル20個……といった注文が増えています。ところが乳剤版の製版代を考えると当社ではそれらを200ロットで見積もりせざるをえず、200個以下の小ロット注文が増える中で、いかにして製版コストを下げることが「仕事を増やす」ための大きな命題でした。

また、当社は最速で2日と納期の早さを強みにしていますが、それでももっと早くできないかと思っていました。それだけお客様の納期への要求は厳しくなっているのです。納期でネックとなるのは外注に頼らざるを得ない製版工程。早ければ1日で出来ませんが、営業時間外や休日には無理を頼めないし、ミスや変更でやり直したい場合も簡単ではありません。かといって、乳剤版を自社で作るのは設備などの面で現実的ではないし、なんとか自社で製版が出来ないかと考えていた時にゴッコプロ100を勧められたのです。

それから理想科学工業にゴッコプロ100で出力した版のサンプルをもらって、自分で刷ってみて、その日のうちにすぐ注文しました。それほどゴッコプロ100の版は十分な品質だったからです。消費者が肉眼で見た程度では、製版屋の乳剤版で刷ったものとどちらが綺麗か見分けが付かないと思います。

版の耐久性も必要充分です。近年は何千、何万と

いった大量注文よりも1000個以下の仕事が増えていますし、そもそも万単位の注文でも納期を考えると3〜4版使って数人が同時に作業しますから、1版あたりに求められる耐久性は数千枚で充分なのです。逆に乳剤版は作業中に汗や唾液が付くと目詰まりを起こす弱点があります。ジュースなどをこぼしても使い物にならなくなり、乳剤版は版代が高価なだけにリスクが高い。対してゴッコプロ100なら1版あたり1000円以下(200メッシュのマスター使用時)ですし、汗などで版が壊れる心配もありませんから、印刷中のトラブルまで考えれば、大量注文であってもゴッコプロ100で数枚製版の方がリスクが少ないでしょう。

汗で壊れるリスク無く、 水性、油性も問わないマスター

また、当社では布から工業部品まで様々な持ち込みの対象物が多いのが悩みの種。例えばナイロンのウエアだと聞いて油性用の版を作らせたのに商品が届いたら綿だった、ということもある。乳剤版は水性インク用と油性用とで違うので、当然、版は作り直しですが、水性、油性を問わず使えるゴッコプロ100ならそんな心配も無用です。

枠張りについてもゴッコプロ100は充分だと思います。そもそも当社では乳剤版でも張りの強いものを使っていない。プラスチック板であっても表面は微妙に波打っ

ゴッコプロ100 導入の決め手

- 1 製版コストが安いので小ロットの注文に対応できる。
- 2 自社で簡単に製版できるので、短納期の仕事や急な変更に対応できる。
- 3 乳剤版と違って、水性、油性を問わずに使え、汗で壊れるリスクもない。

ており、そこに版を密着させるためにはある程度の弾力が必要だからです。ゴッコプロ100専用のファンタチフレーム厚枠を使っていますが、張りが弱いとは思わない。むしろこれぐらいの張りが最適だと思います。

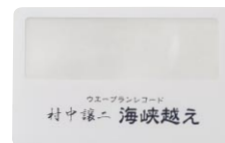
私は30年以上、乳剤版によるシルク印刷を手がけてきました。インクは新しい缶を開けてすぐに使わず、2000回ぐらい練って最適の粘りになってから秘伝の調査を施して使うほど、こだわって仕事をしています。その私が見て、版の品質、耐久性などあらゆる面からゴッコプロ100に仕事を任せて大丈夫と判断したのです。

しかもゴッコプロ100なら、納期がきつい仕事もこなせ、突発的なミスや変更にも迅速に対応できる。当社は今後、ウェブサイトを立ち上げて企業からだけでなく個人客からの受注を進める予定です。そうなればさらに多品種小ロットで短納期が求められるはず。腕のある職人が仕事を増やしたい、次世代に挑戦したいと思うときにこのマシンは力になってくれると思います。



コンパクトミラー

プラスチックに溶剤系インクでプリント。中央が凹むため難しいフタ部分も、版のテンションを調整して綺麗に仕上がっている。



カードルーベ

薄い樹脂カードに溶剤系インクでプリント。大きさは86×54mm。細い文字まで精細に印刷できている。

※サンプルは全て理想科学工業の依頼でサン工芸が製作したものです。

CORPORATE PROFILE

サン工芸

〒121-0062 東京都足立区南花畑3-27-7
Tel:03-3884-5070 Fax:03-3850-7913



- 30年以上にわたる職人歴を持つ堀田健次代表が2004年に立ち上げたシルクスクリーン印刷業。
- 1ヶ月に150〜200版をこなすが、版の大きさや対象物の素材は様々。電気製品の部品からTシャツやトートバッグ

などの繊維類まで、それらに合わせたインクやプリント台を独自に工夫することで高品質の印刷をおこなっている。そういった実績から「職人技を持つ工房」として評価され、大手企業やテレビ局関係からも大口の仕事が舞い込む。